

授業科目等の概要

(文化教養専門課程動物管理学科管理コース) 令和2年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実 支	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			動物形態機能学 (概論・形態機能)	動物が生存していくうえで不可欠なエネルギーの素、身体を作る素である栄養素の消化と呼吸を理解するために、消化器の構造と機能を学ぶ。また、内臓機能の調節では、自律神経と内分泌の基本構造と機能を学ぶ。	1前	30		○			○			○	
2	○			動物病理学	病変の特徴や分類、名称、病理学的検査方法などの病理学専門用語を用い学ぶ。一般的な正常と異常の違いは、加齢による組織変化や生理機能の違い、動物種による病変の違いなどを理解する。これらのことを理解するために、病気の成り立ちから腫瘍などの項目について学ぶ。	2前	30		○			○			○	
3	○			動物形態機能学 (比較解剖学)	動物の生命維持の仕組みと、解剖学および生理学の基礎を知り、生命体としての動物を理解できるようにする。解剖学では動物体の構造について、生理学では動物体の機能について学習する。	1後	30		○			○			○	
4	○			動物形態機能学 (免疫学)	動物が自然界で生存していくために、自らを防護する構造や機能が備わっている。免疫系の基本的な仕組みを理解し、外部環境からの防御として生体防御機構について、また外皮の構造と機能、免疫のしくみ、体温調整に関する基礎知識を得る。	2後	30		○			○			○	
5	○			動物臨床看護学各論 循環器、呼吸器、皮膚、眼科、歯科	チーム獣医療の場で必要な病名や診断名について学習する。また、治療方針の理解度を高め、疾病別の動物看護に活かすために必要な疾病について学ぶ。好発種や、好発年齢があるので、そのポイントを把握した上で各症状を理解し、動物への看護法を身に付ける。	1通	30		○			○			○	○
6	○			動物薬理学	薬の作用機序と有害作用並びに獣医療現場で使用される主な薬剤の特性を理解し、薬剤を正しく取り揃えることを目指す。薬理作用と薬物代謝の仕組みおよび薬の有害作用、中毒を理解し獣医療現場で使用される薬剤の特性を理解する。	2通	60		○			○			○	
7	○			動物感染症学 (総論・微生物学)	主にイヌやネコに感染する微生物や寄生虫の特徴や生活環、感染経路、症状について学習し、予防と看護に活かす。感染・発症の定義、感染の成り立ちについて学習し、主にイヌやネコに感染する微生物について学ぶ。	1前	30		○			○			○	
8	○			動物形態機能学 (血液学)	血液の循環とその調整および呼吸に関わる形態と機能について学ぶ。栄養素と酸素を体の隅々にまで運搬するのが血液である。循環系には血管系とリンパ系があり、リンパ系は免疫という自己防衛機能に重要な機能を持つことを学ぶ。	2前	30		○			○			○	
9	○			動物感染症学 (寄生虫学)	動物をとりまく環境と寄生虫の関係について理解し、寄生虫の生物学的な特徴や寄生虫症についての基礎知識を修得する。主にイヌ、ネコに寄生する内部、外部の寄生虫の感染経路、病害発生の機序、検査法を学び、飼い主に寄生虫感染の予防の大切さを伝えられるようにする。	1通	30		○			○			○	○
10	○			動物感染症学 (病原体・衛生管理学)	「動物感染症学」で学んだ、個々の動物の生命と健康の維持に障害を及ぼす病原体の知識をもとに、これらの病原体によって引き起こされる感染症をどのように予防するかを考える。その中でワクチンについても理解し、動物を健康に管理する知識を身に付ける。	1前	30		○			○			○	
11	○			動物繁殖学	本科目では主にイヌやネコの雌雄の生殖器の構造と機能、性行動および発情・交尾・妊娠・分娩の過程を学ぶ。さらに正常な分娩の前兆、生理的变化と異常分娩時における助産について学習する。	1前	30		○			○			○	

40	○			プレインターンシップ	1年次夏期休暇期間中に、竜之介動物病院で最初のインターンシップ(プレインターンシップ)を行う。合格しなければ次のインターンシップに進めない。プレインターンシップでは飼育実習で学んだことを十分発揮することが肝要である。	1前	32			○			○			○	○
41	○			インターンシップ	インターンシップは、卒業後に就職する職場を体験、理解するために理想的なシステムである。インターンシップは将来の自分の就職先に直結した非常に大切な体験の機会でもある。在学2年間で5回以上のインターンシップをしなければ卒業できない。	1 2通	200			○			○			○	○
42	○			学外学習	動物愛護センター、動物園、観光牧場等を訪問し、その活動や運営について、直接説明を受けながら現場を見学し学ぶ。また各業界の動物に関する状況と違いや飼育管理法等や課題などについても理解する。	1 2通年	32			○	○			○			○
43			○	社会活動	飼育放棄された動物の里親探しや小さな捨て猫を飼育するボランティア活動、また TNR活動(野良猫の不妊活動キャンペーン)、ドリームナイトアウトザズー(難病、障害のある子どもたちを動物園に招待する活動)、動物介在活動(老人施設を訪問し動物たちとのふれあい活動)に参加し、これらの活動を通して生命の貴さや社会貢献の大切さを学ぶ。	1 2通	1			○							
44	○			愛玩動物飼養 I	法律に基づき、動物の愛護と適正な飼養管理についての知識の普及および指導を行なうものに必要な愛玩動物飼養管理士を目指す者が学ぶ。また愛玩動物飼養管理士資格の取得支援を行う。	1前	15			○				○			○
45	○			英会話、海外研修	英会話に海外研修も含める。海外研修は、海外における先進的な知識、技術を観察し、その中で将来の動向をつかむ。また動物保護状況、施設、運営およびその心構えも学ぶ。海外研修での成果もここで評価する。	1通年	30			○		○	○			○	○
46	○			パソコン	社会人あるいは病院事務に必要なとされる実務能力の一つとしてパソコンの使用方法を身につける。履修終了時にはライセンス(Word、Excel)の取得を目指す。	1後	15			○		○	○			○	○
47	○			掃除学	動物関連産業では、動物の収容施設の清掃管理は勿論のこと、環境整備は最重要課題の一つである。清掃にたずさわるときの心がまえ、ポイント、消毒の重要性さらにその効用を学びかつ毎日実践する。	1後	15			○		○	○			○	
48	○			ビジネスマナー I II	ビジネスマナーとしての接客、言葉使い、礼儀作法、行動など社会人としての基本的な作法を身につける。就職対策としての履歴書の書き方、面接をうける作法を学ぶ。さらに一般人とのコミュニケーション能力を高める。	1前 2後	45			○		○	○				○
49	○			就職支援	就職に関する考え方や動物業界の動向について共有し、目指す就職先への就職実現に向けて支援する。	2前	30			○				○			○
50	○			学年活動	1年次における学年運営に係る課題について検討し改善策を探る。	1前	15			○	△			○			○
51	○			掃除学	予防医学の見地からも掃除は重要である。汚れの種類と洗剤選びから基本動作と道具まで送辞の基本を学ぶ	1後	19			○		○	○			○	
52	○			ライセンス対策	在学中の取得できる、家庭犬インストラクター、コミュニケーション検定、日本ペットビジネス協会等の資格試験対策	1後	3.5			○				○			○

53	○		販売学	動物に関するすべての商品についての知識を学ぶ。フード、衣服、装飾品などの関連商品の種類、製造法、流通さらに展示までをも理解する。商品の管理、仕入れなどを総合的に実習する。商品の知識のみならず、ユーザーに対するアドバイザーとしての立場も理解する。	2 後			○		△	○	○		○	○
54	○		トリミング	基礎で習得した知識の実践とし、診療現場に必要な観察力および看護法に関する基本的手技を身に付け、手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力までを習得する。グルーミングが与える動物への効果を学び、様々なイヌ種・ネコ種や状態に応じたグルーミングの技術を得るとともに、皮膚・被毛を中心とした健康状態の把握について理解を深める。	1 2 通	536				○	○		○	○	○
合計					54科目		2758単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
① 所定の科目を履修し、所定の単位を修得すること。動物看護学科93単位 ② 履修期間の出席日数は3分の2以上であること。③ 単位認定は卒業判定会議にて決定する。④ 取得資格は評価の要素とする。		1 学年の学期区分	2 期
		1 学期の授業期間	17 週